

まほらいな市民大学 講座

『 俳人井月の日記より 』

講師 郷土歴史研究家（元手良公民館長）

宮原 達明 氏

令和6年4月9日（火） 13:30～15:00

伊那市生涯学習センター ニシザワいなっせホール



六道の堤にある井月句碑

何處やらに雀の声きく霞かな

井月

井上井月は、幕末の越後（現在の新潟県長岡市）に生まれ、1887年に没するまでの約30年間、信州の伊那谷を放浪しながら多くの名句を詠んだ漂泊の俳人です。井月は無一文で欲がなく、俳諧一筋に生き、句を頼まれればその場で応じたといわれています。そんな井月の生き方や書の巧さは、現在でも多くの俳人らが注目しているとともに、井月同様に各地を放浪した種田山頭火が井月に傾倒し井月の墓を訪れたエピソードや、芥川龍之介が井月の書を「入神」と讃えた逸話があるほどです。また、「井月忌」が2021年「角川俳句大歳時記」で春の季語に採用されました。2022年は井月生誕200年でもありました。

本日は宮原 達明 氏のお話から、「井月の生きざまや俳句の世界」を学び、「信州伊那 井月俳句大会」にも投句してみましよう。

生涯学習課